

意見等		市の考え方
将来都市像について	懲りすぎているので、一般の市民にとっては分かりにくいのではないか。	<p>将来都市像については、①関市の新しいイメージを作りだし、関市の将来（人口を増やすこと）にとって重要である若年層に魅力を発信すること、②他市との差別化を図り、関市が抱える課題に対して前向きに攻める姿勢を表現することをねらいとして今回の将来都市像としました。また、市民にとってあまりなじみのない総合計画について、「どういう意味だろう」と興味をもってもらうきっかけとしたいという思いもあります。</p> <p>事務局としましても分かりにくいということは懸念しておりますので、市民への説明を丁寧に行ってまいります。</p>
目標人口について	目標とは現状より上を目指すものであるのですが、現状人口より低い目標人口であることに疑問がある。なんとか90,000人を維持するような目標とできないか。	<p>本市のH27年の国勢調査結果では、社人研の推計人口を下回る結果となっており、全国的にも大都市への人口集中に歯止めがかかっていない状況です。H27年の国勢調査値を反映した人口推計では、2027年の関市の人口は約82,500人と推計されますが、現実にはそれを下回る可能性が高いと考えられます。しかしながら、関市第5次総合計画では、重点プロジェクト「関イズムプロジェクト」を積極的に推進することで、H27年度に策定した「関市人口ビジョン」における目標人口である約83,000人を上方修正し、目標人口を85,000人としました。</p> <p>ご意見は真摯に受け止め、今後も積極的かつ重点的に移住定住施策を推進してまいります。</p>
婚活事業について	婚活事業を行っても、女性がなかなか集まらない。また年齢が上がるにつれ成立が難しくなる傾向にあるので、適齢期における婚活活動が大切である。	<p>人口減の原因としては、未婚率の増加も大きな要因となっています。本市においても未婚率は増加傾向にあり、婚活への支援も重要な施策であると認識しています。今後作成する基本計画において、婚活事業についても記載していきたいと考えております。</p>
学生の就職について	学生は社会人になるタイミングで生活していた場所で働き始める場合も多い。企業や行政が、関市に住んでいる学生に、関市で働くことについての情報提供やPRをすることが大切である。	<p>移住定住に取り組む上で、「働く場」というのは非常に重要であると考えております。就職先として関市を選択してもらえれば、その後関市に定住する可能性が高くなるため、学生への市内企業のPRや就活支援は非常に効果的であるといえます。</p> <p>「関イズムプロジェクト」の①地域経済循環に、“市内大学・専門学校及び関商工との地域連携”を加え、市内企業と連携し、学生の域内就職の促進に努めてまいります。</p>

意見等		市の考え方
移住定住について	人口増加を目指すためには、世帯（家族）をターゲットにすることが効果的である。世帯が転入するためには、住みやすい環境、子育て支援の充実、働く場が必要である。特に働く場があるというのは大きい。企業誘致など働く場の確保に取り組む必要がある。	VOICEプロジェクトにおいて、本市は住みやすい環境であるという声が多く聞かれました。また、子育て支援策についても、託児サービスの充実や子育て世代包括支援センターの開設など様々なアプローチで取り組んでまいりました。しかしながら、雇用施策につきましては、行政としてこれまで積極的に取り組んでこなかった側面があります。第5次総合計画においては、雇用施策が重要となってくるため、今後基本計画において検討していきます。
ベッドタウンについて	関市に働く場を創出するのも重要だが、近郊の働く場がある大都市（名古屋など）のベッドタウンとして人を呼び込むことも考えていく必要がある。	雇用については、広域で取り組むことで、より多くの働く場を創出することが可能であるため、周辺自治体と連携し取り組んでまいります。また、移住定住施策においても、関市単独で考えるのではなく、名古屋などの周辺の大都市を念頭におきながら、面的に取り組んでまいります。
女性の定住について	若い女性が大都市に集まるという話も聞くので、若い女性が関市に留まってくれるように取り組んでもらいたい。	人口増加に欠かせないのは、やはり女性です。とくに子どもを産む若い女性に関市を選んでもらうことが重要となってきます。女性が住みやすい、働きやすい取組を、基本計画において検討していきます。
過疎対策について	中山間地域はどんどん人口が減り、活気がなくなってきている。子どもも地域外で就職してしまい地元へ帰ってこない。	第5次総合計画における都市の整備方針は「コンパクト+ネットワーク」がキーワードです。都市機能が集約された市街地と恵まれた自然環境を有する中山間地域を、公共交通や道路、情報ネットワークでつなぎ、機能分担と効率化によるまちづくりを進めてまいります。また、中山間地域には魅力的な資源がたくさんあり、それらを生かした魅力の発信、郷土教育の推進、空き家を活用した移住定住の促進などにより、住み慣れた地域で住み続けられるような施策を基本計画で検討していきます。
縦割り行政について	縦割りでそれぞれが独立してしまっている。分かりやすく整理されてはいるが、横の連携こそが重要である。	第5次総合計画では、目的と手段を明確にするため、総合計画の体系と組織体系を一致させております。しかし、将来都市像、目標人口を達成するためには、個々の部署の取組だけではとうてい達成できません。そのため「関イズムプロジェクト」を重点プロジェクトとして位置付け、全庁横断的に取り組んでまいります。基本構想素案においては、政策の体系図に「関イズムプロジェクト」との関連が分かるように表を加えました。また、「関イズムプロジェクト」は、企画政策課が各部署間の調整役となり、縦割りとならないよう責任をもって推進してまいります。

意見等		市の考え方
人と人との繋がりについて	住みやすい地域をつくっていくためには、人と人が繋がれることを第一に考えるべきである。もっと人づくりを強調していただきたい。	第5次総合計画では、まちづくりの視点として「人」に着眼点を置いた政策を二つ位置づけております。また、「関イズムプロジェクト」における②地域力向上では、地域委員会や地域包括ケアシステムなど、人と人との繋がりが欠かせない取組を主要な取組として掲げておりますので、本文説明中に人との繋がりについての記載を加えました。
若者の活躍について	まちづくりに興味を持っている若者は結構いる。もっと若者が参加できる場があると、関市を知ることができそれが郷土愛につながるのではないか。これからのまちづくりにおいては若者の発想が大切で、それがまちに活気をあたえてくれると思う。	活気のあるまちづくりのためには若者の視点、活躍が欠かせません。関市が若者に選ばれるまちとなるよう、若者が魅力的に思えるような施策を積極的に展開していくため、「関イズムプロジェクト」の②地域力向上の主要な取組に、“学生・若者の地域活躍”を加えました。